



JHD-610PRO

USER'S GUIDE



安全のためにご確認ください

JINBEI JHD-610PROをご購入いただき、誠にありがとうございます。本取扱説明書には組立、安全なご利用に関する大切なご案内が記載されています。本書を熟読の上、正しくご利用下さい。また、お読みになった後は大切に保管し、必要な時にお役立て下さい。なお、本書の無断転載・2次使用を禁止します。

- ⚠ 可燃性液体が接触する可能性のある環境、雨天時や水中のご利用、保管は禁止です。
- ⚠ 強磁界、及び粉塵の多い環境でのご利用、保管は避けて下さい。
- ⚠ 結露を防ぐため、温度変化の激しい場所や炎天下の車中などでのご利用、保管は避けて下さい。
- ⚠ フラッシュチューブやモデリングランプは素手で触らないで下さい。
- ⚠ バッテリーの過放電、過充電、専用充電器以外での充電は絶対におやめ下さい。バッテリーの破損、劣化の原因になります。
- ⚠ バッテリーを充電しながら、または、バッテリーに充電器が接続された状態でのご利用はおやめ下さい。バッテリーの破損、劣化の原因になります。
- ⚠ 充電器をコンセントに差し込んでから充電器をバッテリーに接続してください。充電完了後は速やかに充電器を外して下さい。
- ⚠ 筐体内への金属パーツの混入等にお気をつけ下さい。
- ⚠ 濡れた手や濡れた布で製品に触れないで下さい。感電の恐れがあります。
- ⚠ 代理店以外による分解、改造、修理は禁止です。これらの形跡が認められた場合、保証期間は無効になり全ての保証対象外となります。
- ⚠ 使用する前に、ティルトハンドルをしっかりと締めてください。
- ⚠ 被写体の至近距離での発光は健康被害を引き起こす恐れがあります。絶対におやめ下さい。

その他 利用上の注意

◆無償保証期間は1年間です◆各部のネジは締めすぎないようにご注意ください。ネジが破損する場合があります◆プラグの抜き差しはプラスチック部分をしっかり持ってゆっくり行ってください◆コードを引っ張る等の行為は絶対におやめください◆小さいお子様の手の届かない環境で運用してください◆バッテリーは消耗品です。定期的な交換をおすすめします◆ご使用方法や環境次第ではスペック通りの性能が引き出せない場合があります◆無償保証期間は当製品の耐久性を保証するものではありません◆オムニバスを含む弊社契約店以外からのご購入品は保証対象外です。

お届け内容

- | | |
|----------------------|----|
| 1. JHD-610PRO本体 | 1点 |
| 2. リフレクター | 1点 |
| 3. JHD-610PRO専用バッテリー | 1点 |
| 4. JHD-610PRO専用充電器 | 1点 |



各部名称

1. JHD-610PRO専用バッテリー
2. シンク口端子
3. 光スレーブ受光部
4. ティルト固定ノブ
5. リフレクター
6. ガラスドーム
7. フラッシュチューブ
8. アンブレラホール(Φ8mm)
9. ライトスタンド固定ネジ
10. LEDモデリングランプ
11. アクセサリーロック解除ボタン
- 12-15. ファンクションボタン
16. テスト発光ボタン
17. 調光ダイヤル/決定ボタン
18. モデリングランプ/電源ボタン
19. グループ設定: A-J/L/O/P/Q/S/U
20. チャンネル設定: 00~31
21. マニュアルモード / TTLモード
22. 出力(補正值)
M(1.0~9.0) / TTL(±3.0) / HSS(1.0~9.0)
23. 電池残量: 100% / 75% / 50% / 25%
24. フラッシュモード
通常 **NOR** / HSS **⚡** / フリース **FRE**
25. チャージ完了音/操作音
26. 光スレーブ
27. モデリングランプ



リチウムイオンバッテリーの装着と充電



バッテリーのガイドと本体側の溝を合わせて、滑らせるように装着します。「カチッ」という音がするとロック完了です。ロックボタンが凸状態になっていることと、バッテリーが外れないことを確認して下さい。取り外す場合にはロックボタンを押して解除してから溝に沿って取り出します。**落下に注意して下さい。**



電池背面には残量表示のインジケータがあります。

- レベル4 : 100-75% 充電不可
- レベル3 : 75-50%
- レベル2 : 50-25% 充電可
- レベル1 : 25-5% 要充電
- レベル0 : 5%未満 過放電により破損の危険有



電池の残量表示が25%を示したら充電の準備を始めて下さい。(低残量時はHD-610Proを駆動出来ません)専用充電器(16.8V / 2.8A)でおおよそ3時間で満充電となります。**過放電・過充電は厳禁です(バッテリーの故障、破損、安全上の問題が発生する場合があります)。**

リチウムイオン電池の特性、性能などについて

- ▽新品のバッテリーは2,3回の充放電後に最高の性能を発揮します。
- ▽おおよそ300回の充放電が可能です。
- ▽使用頻度に比例してバッテリーは劣化し、充電可能容量が減っていきます。
- ▽過放電はバッテリー容量に影響を及ぼし、故障の原因となりますのでご注意ください。
- ▽バッテリー残量や性能は高温や低温時に著しく低下します。利用適正温度は15度~25度です。
- ▽屋外での利用時には通常よりも短い時間での利用になる場合があります。
- ▽極端な高温・低温下ではバッテリーが一時的にシャットダウンすることがあります。

リチウムイオン電池の充電について

- ▽ストロボ液晶、バッテリー上の残量表示を参考に、早めの充電をおすすめします。
- ▽使用後は10分程度の冷却時間を設けてから充電して下さい。
- ▽充電器をコンセントに繋いだ後に電池と接続して下さい。
- ▽充電は乾燥した可燃物の無い場所で行ってください。
- ▽専用充電器以外の充電器は使用しないで下さい。
- ▽充電器上のLEDで充電状態を確認し、充電完了後は速やかに取り外して下さい。
- ▽保管中の場合、3ヶ月に1回は充放電のサイクルを行い、満充電で保管してください。

リチウムイオン電池の取扱と保管について(長期間利用しない場合)

- ▽電池を分解・改造しないで下さい。
- ▽電池の接点を短絡させないで下さい。
- ▽水や火の中に電池を廃棄しないで下さい。
- ▽車中等、高温や低温環境にさらさないでください。
- ▽電池に過度の衝撃や振動を与えないでください。
- ▽他の目的のために電池は使用できません。
- ▽長期間使用しない場合は予め満充電にして保管して下さい。
- ▽涼しく乾燥した場所に保管してください。
- ▽子供の手の届かないところに保管してください。

基本操作

- ①バッテリーをセット 前項を参考に、充電済みのバッテリーをセットする。
- ②電源ON 電源ボタン⑩を1.5秒以上押す。製品ロゴの起動画面が現れたらボタンを離す。
- ③設定・利用 本書各項を参考に、各機能を設定する。
- ④電源OFF 電源ボタン⑩を1.5秒以上押す。画面が真っ暗になったらシャットダウン完了。



設定方法 (TR-Q6、TR-Q7、TR-V6、TRS-V)

別売りのTR-Q6、TR-Q7を使用する際には、マニュアルモードの他に、対応各社のTTLやハイスピードシンクロが可能です。一部機能については、リモコン上の設定が優先されます。別売りのTR-V6、旧世代のリモコンTRS-Vを使用する際には、「マニュアルモード」かつ「X接点以下の同調速度」でのみ利用可能です。

操作手順	MENU	操作ボタン	TTL発光	マニュアル発光
①モード設定	1	13	「TTL」を選択※1※2	「M」を選択※1
②シンクロモード設定	1	14	「ノーマル」または「HSS」を選択※1※2  	「ノーマル」「HSS」「フリーズ」を選択※1※2   
③無線設定	1	15	リモコンに合った無線モードを選択※3※4 ⁽¹⁾ TTL-C/N/S/F(TR-Q6)/ ⁽²⁾ TTL-ALL(TR-Q7)/ ⁽³⁾ CH/GR(TR-V6)/ ⁽⁴⁾ CH(TRS-V)	
④CH/GR設定	2	13,14,17	リモコンと同じCH、GRを設定。※3※4	
⑤その他設定	3	13,14,15,18	チャージ完了音、スレープ、モデリングランプなどを設定 ※1※5	

※1. リモコンから上書き設定可能な場合有り(ノーマルとフリーズの切替は不可)。
 ※2. TR-V6、TRS-VではTTL、HSS(ハイスピードシンクロ)機能はご使用いただけません。
 ※3. TTLはTR-Q6、TR-Q7を利用する場合のみ有効。

※4. TR-V6を利用する場合「CH/GR」を選択。TRS-Vを利用する場合「CH」を選択。
 ※5. TR-Q6、TR-Q7、TR-V6上からモデリングランプのON/OFF可能。

メニュー

液晶表示直下のボタン①を押すことで、各機能の変更が可能です。★がつく機能は、リモコン使用時にリモコン上の設定が優先される事があります。

MENU1 MODE SYNC ((P)) TTL-C

MODE M/TTL マニュアル/TTL切替★

SYNC フラッシュモード切替

NOR ノーマルモード

Hi ハイスピードシンクロ (対応リモコン使用時)

FRE フリーズモード (閃光速度最高1/25,000秒、Mモード時のみ)

((P)) ワイヤレスモード状態

((P)) TTL-ALL TR-Q7のみ

((P)) TTL-C CanonTTL (TR-Q6C)

((P)) TTL-N NikonTTL (TR-Q6N)

((P)) TTL-S SonyTTL (TR-Q6S)

((P)) TTL-F FujifilmTTL (TR-Q6F)

((P)) CH/GR TR-V6 (HSS/TTL不可)

((P)) CH TRS-V (HSS/TTL不可)

((P)) OFF

MENU2 CH GR ID

CH チャンネル切替 (01-31)

GR グループ切替 (A-J/L/O/P/Q/S/U)
グループ設定はTRS-Vでは利用できません。

ID ID切替 (0-99)

▼それぞれのファンクションボタンを押すと、選択状態に切り替わります。選択状態のまま、「調光ダイヤル」を操作することで、各値を設定可能です。「調光ダイヤル」を押すことで決定出来ます。

MENU3

操作音・チャージ完了音 ON/OFF★

スleepモードON/OFF★

モデリングランプON/OFF (-PRO:出力比例/ -1~9:出力手動)★

▼電源ボタンを短く1回押すことでも、モデリングランプのON/OFFが可能です。

MENU4 EasyCap All 1 No. 1

EasyCap 多重発光 (イージーキャプチャー) モード ON/OFF

All 2 発光グループ数

No.1 発光順序

▼複数のライトを別々のシャッタータイミングで発光させるモードです。スタジオ撮影において、マスク用途の切り抜き作業などで利用します。
《例》
発光グループを「3」、発光順序を「3」に設定したライトは、1回目と2回目のシャッター (シンクロ信号) では光らず、3回目のシャッターに同調して発光します。

MENU5 Delay 00.00

マスターモード

Delay 発光ディレイ

00.00 デレイタイマー設定 (00~30秒/0.01秒単位)

▼マスターモード時はフラッシュの同調のみが有効になります。その他設定はトリガーからは出来ません。
▼ディレイ設定時は、シンクロ信号受信後ディレイタイマー設定時間経過時に発光します。

機能特徴・注意事項

- ◆TTL TTL TR-Q6、TR-Q7により対応。カメラ機種、設定、環境、ストロボ設定などにより、測光値や補正値が変わる場合があります。また、TR-Q6ではTTL測光によるストロボ出力値をマニュアルモードに引き継ぐことは出来ません。
- ◆HSS 高速シャッター TR-Q6、TR-Q7により対応。カメラ機種、設定、環境、ストロボ設定などにより、効果が異なる場合があります。ノーマルモードと比較して色温度が上がります。
- ◆Freeze Mode フリーズモード 最速1/25,000秒の閃光速度。クリップオンストロボを凌ぐ閃光速度が得られます。色温度が上昇します。
- ◆Delay Mode 遅延発光 シンクロ信号の受信後、最長30秒までの間で設定した時間経過後に発光します。
- ◆Capture Mode 多重発光 任意のシャッター回数で発光します。複数回のシャッターをきる合成作業に利用します。
- ◆OverHeatProtection 安全回路 内部温度計で常時計測し、オーバーヒート時には自動的に機能を停止します。
- ◆Continuous Capture 連写性能 出力が1.0-3.0の間の場合、秒間20発に迫る連写に追従します。なおバッテリー残量や電波状況により変化します。

バッテリーの取り扱いに関しまして

本書にはバッテリーをご使用いただく上で、ご注意ください点を記載しております。大切に保管の上、安全な運用にお役立てください。

リチウムイオン電池の特性、性能などについて

- ▽新品のバッテリーは2～3回の充放電後に最高の性能を発揮します。
- ▽使用頻度・回数に応じてバッテリーは劣化し、充電可能容量が減っていきます。
- ▽保管中の自然放電により過放電となる場合がございます。過充電・過放電はバッテリーの膨張、充電可能容量の大幅な減少など、故障や劣化の原因となりますのでご注意ください。
- ▽バッテリー残量や性能は高温や低温時に著しく低下します。望ましい利用適正温度は15度～25度です。
- ▽屋外環境下（高温、低温、直射日光が当たる場所など）での利用時には通常よりも短い時間での利用になる場合があります。
- ▽極端な高温・低温下ではバッテリーが一時的にシャットダウンすることがあります。

リチウムイオン電池の充電に関して

- ▽ストロボ液晶、バッテリー上の表示を参考に、残量が50%以下の場合は早めの充電をおすすめします。
- ▽使用後は10分程度の冷却時間を設けてから充電して下さい。
- ▽充電器をコンセントに繋いだ後に電池と接続して下さい。
- ▽充電は乾燥した可燃物の無い場所で行ってください。
- ▽専用充電器以外の充電器は使用しないで下さい。
- ▽充電器上のLEDで充電状態を確認し、充電完了後は速やかに取り外して下さい。過充電・過放電はバッテリーの膨張、充電可能容量の大幅な減少など、故障や劣化の原因となりますのでご注意ください。

リチウムイオン電池の取り扱いと保管について

- ▽保管中、自然放電により過放電となる場合がございます。3ヶ月に1回は充放電のサイクルを行い、満充電にしてから保管してください。過充電・過放電はバッテリーの膨張、充電可能容量の大幅な減少など、故障や劣化の原因となりますのでご注意ください。
- ▽電池を分解・改造しないで下さい。
- ▽電池の接点を短絡させないで下さい。
- ▽水や火の中に電池を廃棄しないで下さい。
- ▽車中等、高温や低温環境にさらさないでください。
- ▽電池に過度の衝撃や振動を与えないでください。
- ▽他の目的のために電池は使用できません。
- ▽涼しく乾燥した場所に保管してください。
- ▽子供の手の届かないところに保管してください。
- ▽バッテリーは有害物質を含むため、使用済みのバッテリーは必ず各自治体の規定に基づいた廃棄方法に準じて廃棄処理を行ってください。
- ▽バッテリー単品の運搬時、廃棄時には金属端子部分に絶縁テープを貼り付けるなど、回路がショートしないようにして下さい。